

FIA-F4 JAPANESE CHAMPIONSHIP

Rd,13-Rd,14 OTGmotorsports REPORT

11月2.3日 | 天候:晴 | コース:ツインリンクもてぎ

2015年にスタートした「FIA-F4選手権」は、11月2日-3日にツインリンクもてぎで開催された第13戦、第14戦で5年目のシーズンの幕を閉じた。

大阪トヨタペットグループは、開催初年度から同選手権の若手ドライバーの育成や才能発掘を行なうという目的に賛同しサポートを行なってきた。2015年から2017年まではFIA-F4選手権にシリーズスポンサーとして関わってきたが、2018年からは自社のメンテナンススキルの向上や人材育成を兼ねてモータースポーツ部門の「OTG motorsports」がチームを結成してエントリー。今シーズンはチームのエースナンバー#60を菅波冬悟選手が背負い、もう一台の#80は、3代目のFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEドライバーとなった大竹将光選手が駆る。

年間8大会14戦で競われる2019年のFIA-F4選手権は、9月21日-22日にスポーツランドSUGOで第11戦と第12戦が実施され、菅波選手は6位と7位、大竹選手は11位と8位でフィニッシュ。この結果によりチームランキングはワークスと呼ばれるホンダとトヨタのチームに割って入る2位、ドライバーズランキングは菅波選手が3位につけて最終戦を迎えた。



#60 菅波冬悟選手

<予選>

第13戦、14戦のスターティンググリッドを決める予選は、11月2日の8時から30分間に亘って行なわれた。ツインリンクもてぎは朝から日が差し込むものの気温は低く、ウォームアップに時間を要することからコースオープンとともに走行を開始する。

菅波選手は計測5周目に1分58秒台のタイムを刻み、計時モニターのトップに名前が表示される。しかし、ライバル勢もタイムアップを図りコンマ数秒を争う混戦となっていく。7周目には1分57秒972、8周目には1分57秒948と徐々にタイムアップを果たすが、トップとの差はコンマ5秒あったために計測を続ける。30分の予選時間の最後までアタックを行なった菅波選手だったが、自己ベストタイムを更新することができず、第13戦は14位、第14戦は12位と今シーズンワーストのリザルトとなった。

それでも、トップとのタイム差はコンマ5秒しかなく、決勝レースでの挽回が期待された。

<第13戦>

第13戦、14戦の予選終了から約4時間半のインターバルを経て、第13戦の決勝レースが13周で競われた。予選終了後から気温は上がっていくが、それでも20°Cに満たず涼しいなかでの決勝レースとなった。

14番グリッドからスタートした菅波選手は、ポジションを上げて1コーナーを通過。10番手争いの混戦の中で、少しでも順位を上げようとライバル勢とサイドバイサイドでコーナーを抜ける。するとS字の先のV字コーナーで多重クラッシュが発生し、菅波選手も巻き込まれてしまう。足まわりを損傷したがなんとかピットに戻り修復を図ることになる。このアクシデントによってセーフティカーが導入され、ピットで修復を行なった菅波選手は隊列に復帰する。しかし、レーシングスピードで走ることができないと判断し、再びピットに戻りリタイヤとなった。

<第14戦>

第13戦の終了から一夜明けた3日の8時15分から2019年シーズンを締めくくる第14戦の決勝レースが実施された。

12番グリッドからスタートした菅波選手は、1コーナーまでに数台をパスしてトップ10圏内へ入る。しかし、5コーナーの混戦のなかでポジションを落として1周目のコントロールラインを13番手で通過する。すると4コーナーの立ち上がりで、前を走行していたマシンが挙動を乱し1台を巻き込んでクラッシュ。巻き込まれたマシンがさらにイン側を走っていた菅波選手にぶつかり、このアクシデントで走行不能となってしまった。第12戦まで全戦で完走しポイントを獲得してきた菅波選手だったが、最終戦は両レースともにリタイヤとなった。FIA-F4選手権に参戦し3年目のシーズンとなった菅波選手は、中盤までシリーズチャンピオン争いを繰り広げたが、最終的にドライバーズランキング5位で終えることとなった。

<菅波冬悟選手>

公式練習では上々という流れではなかったですが、上位との差がなかったので少し調整すれば戦える状態にあると思っていました。しかし、セッションが進むごとに狙っていた方向とのずれが生じて、予選では下位に沈んでしまいました。この予選結果がすべての敗因です。今シーズンは、チェッカーを受けることがドライバーの最低限の仕事と意識して戦ってきました。第13戦、14戦ともにリタイヤしてしまって悔いが残ります。今シーズンは使用するタイヤのロットが変わりセッティングなど苦戦をしましたが、それでも中盤までチャンピオン争いことができました。初年度はチャレンジドライバーとして、2年目、3年目はOTGから参戦する機会をもらい感謝しています。チームとしても成長できた3年だったと思います。関わっていただいた皆さまに御礼申し上げます。



<予選>

第13戦、14戦のスターティンググリッドを決める予選は、11月2日の8時から30分間に亘って行なわれた。ツインリンクもてぎは朝から日が差し込むものの気温は低く、ウォームアップに時間を要することからコースオープンとともに走行を開始する。

大竹選手も菅波選手と同様にコースオープンとともに走行を開始する。徐々にタイムアップを図り、計測6周目に1分58秒台に入れるがコース上のトラフィックによってクリアラップが取れない。11周目に自己ベストタイムを更新し13周目には1分58秒634とさらにタイムアップを果たすが、ライバル勢に対して1秒の遅れをとり第13戦、14戦ともに21位という結果に終わる。スーパーFJなどでツインリンクもてぎでの走行経験が大竹選手だったが、悔いの残る予選となった。

<第13戦>

第13戦、14戦の予選終了から約4時間半のインターバルを経て、第13戦の決勝レースが13周で競われた。予選終了後から気温は上がっていくが、それでも20℃に満たず涼しいなかでの決勝レースとなった。

21番手スタートの大竹選手は、シグナルが消えるとともに抜群の加速をみせる。しかしスタートから15mほど進んだところで右側のドライブシャフトが折れて、そのままコースサイドにマシンを停めることとなった。このトラブルにより2台ともリタイヤという悔しい結果となる。

<第14戦>

第13戦の終了から一夜明けた3日の8時15分から2019年シーズンを締めくくる第14戦の決勝レースが実施された。

21番手スタートの大竹選手は好スタートを切り、1周目のコントロールラインを16番手で通過する。2周目には菅波選手も巻き込まれた多重クラッシュが発生し、このアクシデントによってセーフティカーが導入される。レースは6周目に再開され、大竹選手は14番手からトップ10圏内を目指した。リスタート後に大竹選手は1台をパスして13番手に浮上するが、翌週の5コーナーで挙動を乱して2台に抜かれてしまう。その後、9周目には再びポジションを14番手に上げ、11周目には自己ベストタイムの1分58秒550をマーク。終盤で追い上げを図るが先行車を抜くにはいたらず、13周目に14位でチェッカーを受けた。レース後の裁定で上位のマシンがペナルティを受けたため、第14戦は13位という結果に終わる。

3代目のFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEドライバーとしてシーズンを戦った大竹選手は2度の入賞でドライバーズランキング18位となった。

3代目のFIA-F4 JAPANESE CHALLENGEドライバーとしてシーズンを戦った大竹選手は2度の入賞でドライバーズランキング18位となった。

<大竹将光選手>

1週間前にチームでテストに来たときと比べてグリップ感が薄く、レースウィークを通して苦戦しました。第13戦はスタート直後に数台をパスしたのですが、ドライブシャフトが折れてしまいリタイヤとなりました。普通に走っていれば順位を上げることができたと思うので残念です。第14戦は第13戦でリタイヤしたためにタイヤのアドバンテージがあり、中盤まではライバル勢にプレッシャーを掛けられました。しかしミスもあり14番手となり、最終ラップでも勝負に出たのですが、そのままの順位でゴールとなりました。今シーズンは、これまでの経歴の中でもっとも良い体制で戦わせてもらいました。勉強になることは多かったですが、チームの期待に応えられなかったことは申し訳ないです。ドライビングも含めて指摘されたことが多かったので、その部分を改善してこれからのレースに繋がりたいです。



公式練習の結果をみるとトップとは差がありましたが、調整して1周をまとめれば勝負できる状態にあると考えていました。しかし、菅波選手も大竹選手もコンディションの変化に合わせてきれず今シーズンワーストの予選順位となってしまいました。この結果がレースでも尾を引いて、菅波選手は第13戦、14戦ともにクラッシュに巻き込まれたのです。ポジション取りの悪さもありましたが、いつもの予選結果ならばアクシデントを避けられたはずでした。大竹選手は第13戦が車両ドライブのためにリタイヤとなり、チームとしては申し訳なかったです。

菅波選手は3シーズン目の戦いで、最初は4輪に乗ったことのないところからのスタートでした。この期間ですごく成長しましたし、今やスーパーGTのドライバーとなりました。3年間で学んだことをスーパーGTに乗っていても忘れないでもらいたいです。

大竹選手は、マシンコントロールに問題はなく上手なのですが、小さいころから染みついたドライビングの癖を修正するのに悩みました。徐々に改善していきましたが最終戦までに結果はつきてきませんでした。今後もレースをするうえで課題になってくるので、今シーズンで得たことを活かしてもらいたいです。

